

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	3170400190
法人名	社会福祉法人こうほうえん
事業所名	グループホーム ひので
訪問調査日	平成 19年 9月 4日
評価確定日	平成 19年 9月 20日
評価機関名	特定非営利活動法人 福祉経営ネットワーク

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みません。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	3179400190
法人名	社会福祉法人 こうほうえん
事業所名	グループホーム ひので
所在地	境港市日の出町78-2 (電話) 0859-44-0002

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉経営ネットワーク		
所在地	東京都千代田区九段北4-1-9市ヶ谷MSEビル4F		
訪問調査日	平成19年9月4日	評価確定日	平成19年9月20日

【情報提供票より】(19年 8月18日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 16年 4月 1日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	16.2 人 常勤 14人, 非常勤 3人, 常勤換算 2.2人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り
	2階建ての 1階 ~ 2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	24,000 円	その他の経費(月額)	19,500 円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円)	有りの場合償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,100 円			

(4) 利用者の概要(月 日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1	1 名	要介護2	1 名		
要介護3	10 名	要介護4	6 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85.3 歳	最低	76 歳	最高	95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	高田内科医院 やぎきクリニック 足立歯科医院
---------	------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

利用者への気配りを重んじた介護の実践を目指して、ホーム独自の理念の策定が為された。また、職員の利用者への直接的介助努力だけでなく、遠くからの見守りによる支援など各種の配慮が施設全体で進められている。地域密着型のグループホームとしての運営が行われており、自治会加入や10箇所からのボランティアの来訪など近隣地域との交流が進展した。これは、職員の助力によることも多い。施設の職員の自発的な研修・勉強会が行われている。(職場の問題事例をテーマに行う具体的な勉強会として評価できる) 管理者をはじめ職員全員が、利用者の家族の満足度調査で好評を得ている現在の状況に安住することなく、積極的に前向きに改善に取り組みたいと計画している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>「外部から玄関へのアプローチの段差は車いすの利用者に不便である」と「ホーム内に手すりが無い」が課題であったが、物理的に解決されていない。</p> <p>「地域との連携が不十分である」という課題は改善が進展している(下記④参照)</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>全職員が自己評価票を読み込み、会合を開いて検討を進め、内容を理解した。(会合は5~6回行われた) この自己評価の検討結果は日常の業務に反映し、総合的な視野で地域との接触などが行われている。今後も、外部評価の今後取り組み項目の推進を期待したい。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>施設利用者の近況の紹介、介護サービスの変化などの説明を含めた施設の活動状況を報告。地域の介護福祉の動向の情報。高齢者の入居待機者数の情報などの交換の場となっている。地域とホームの共同の防火訓練の計画も話し合われている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族会や、たよりを毎月発行し、写真や手紙とともに送付するなど、家族とのコミュニケーションを深める努力を行っている。また意見箱を設置し、面会時にも意見や意向を聞くなど、家族の意見を取り入れる努力をしている。家族の意見として、手のかかる入居者はかりに職員の目がいついていのではないかと意見があった。今後、運営推進会議などをとおして、介護とは身の回りの世話だけを意味するのではなく、人を尊重し人の能力を引き出すために、一緒に行なったり、自分でできることを行うことも重要な介護であることを理解してもらい働きかけをしていくことが重要である。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>ボランティアを受け入れ地域からグループホームに来てもらう働きかけと、自治会活動、近くの学校や公民館での交流など地域社会へ積極的に出かける働きかけの双方に、意欲的に取り組んでいる。グループホームは地域の一員であるということへの意識が高く、積極的に地域との連携を密にし、さらに拡げようとの実践が行われている。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念、スローガンなどが玄関や共用の場の壁面などに掲示されている。また、職員全員で構築した当グループホーム独自の理念を掲示している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日、朝礼で理念を復唱し、チーム計画シートへ反映させ、実践に向けて取り組んでいる。	○	グループホームの理念が明示され、家庭の暮らしと連続した設営がなされているが、現在では、個人の家庭においても高齢者の重度化に対応しバリアフリーが普通になりつつある。グループホームにおいても入り口の段差をなくし、居室廊下の手すりを設置すべきである。職員の利用者への配慮は重要であるが、将来の事故防止への対策も講じられたい。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に参加でき、近隣の住民との挨拶など親しみが增加している。また、市民運動会、敬老会、文化祭などで交流が為されている。自治会の一斉清掃などの活動に参加している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価については、自己評価委員を中心に全職員で3ヶ月にわたって検討が進められた。自分たちの活動の評価や課題などの検討見直しなど、日常の業務活動の見直しにも結びついている	○	サービスの細目の項目だけでなく、総括的な運営関連項目についても理解を深めるようにして、地域へのアプローチや、社会への広報などへの意識を高めるようにする必要があると思われる。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一回程度、運営推進会議が開催されている。市役所担当部署・地域包括センター・民生委員・家族代表・ボランティア代表・利用者代表などの参加があり、ホームの活動報告をはじめ、福祉の地域情報などを含めて委員からの助言や意見などを貰っている。有意義な情報交換の場となっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	長寿健康課、生活支援係と連携を図り、情報交換を行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月一回施設の広報誌「ひので通信」を家族に送るときに、利用者の状況報告・写真数枚・前月の食事献立・小遣い帳報告などの文書を同封している。利用者の家族が、訪問した機会に情報提供をしている。また、特別の変化などの情報については、家族に電話で報告することもある。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者や担当職員が、利用者や家族と会話し、意見や要望を聞き出している。その意見や不満について職員が検討して実際のケアに反映している。日常のこまめな対話に努力するとともに、あまり自分の意見を話さない利用者については、家族に聞いてもらうようにしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	施設開設以来の職員の退職数は2名と少ないが、法人内の人事異動で職員の交代が発生する。新しい職員が入るときは利用者・家族に必ず紹介し配慮している。職員の定着がより長くなるアクションに期待する	○	上司と職員の対話や相談は常に行われていると思われる。それに加えて職員間の親睦会合など対人関係の悩みを解消するようなアクションが期待される。
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人の研修の実施は勿論、外部研修を連絡し自主研修の機会を促している。又、施設職員による自主的な勉強会が月1回以上進められている。研修内容の記録が不十分であるのが残念である。	○	勉強会を始め、色々な活動がこまめに行われている。しかし、それらの活動の記録を残すことが殆ど行われていない。手間のかかることではあるが、実施の記録を残すことで、過去の経緯を把握し、将来のステップを決める要因となるものである。努力されたい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部のルートによる情報の入手や交流を図っている。法人内の同業者との交流は定期的に行われている。県内のグループホーム協会への入会も考慮中である。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	施設入居前に、本人・家族が何回か施設に訪れている。雰囲気になじんだり、入居者の役割分担しているところなどの効果が見られる。本来施設側から自宅を訪問することも入居後のケアには望ましいが、あまり要望が無いのが現状である。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者を人生の先輩と捉えて、色々と教えてもらうことも多い。調理方法や調味などや近隣地域の慣習や地理の特徴などである。また、職員の人生のアドバイザーとしての悩み相談を頼むこともある。利用者の役割の一部と言う位置づけにもなっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前の段階からホームを見学する機会を持ち、自宅も訪問し、なじみの関係づくりを実践したうえで、アセスメントを行い、利用者・家族の意向や希望を把握するよう努めている。入居後も日々の触れ合いの中で、利用者個々の思いや希望をとらえるよう努めている。そして、介護計画にも組み込み、対応に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	法人独自の様式を使用している。常に一人ひとりに応じたケアができるよう、日々の関わりをとおして、一人ひとりの意向やケアの在り方を探り、職員がみんなで検討し合っている。そして、家族からも意向もきき、家族とも話し合いながら介護計画を作成し、説明のうえ交付している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	日々関わる中で、意向の確認やモニタリングに努め、また、面会時に家族の意向の変化も確認しながら、定期的に半年に一回、状態の変化があったときにはその都度見直しを行い、新たな介護計画を作成している。作成した介護計画書の中で重要な箇所には、目立つようにアンダーラインを引く工夫も行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療の連携体制を活かし、毎月一回は関係するかかりつけ医や訪問看護師と情報交換をしている。また、入居者やその家族に理解を得て、共用型デイサービスやショートステイサービス事業について話し合うなど、グループホームの多機能性を高めるよう努めている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前から、診療科目ごとに、かかりつけ医を把握して、受診や往診の協力を得ている。定期通院は家族が行うことを基本としつつも、状況や家族の意向に応じてグループホームとしても受診介助の支援を行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	グループホームの方針としては、利用者や家族の意向があれば、かかりつけ医や訪問看護師と連携をとりながら対応したいと考えているが、まだ重度化や終末期の前例はない。状態の変化があった場合に、その都度家族の意向を確認し対応している。	○	重度化した場合や終末期の在り方については、グループホームが対応できる支援や方法を利用者・家族や医師と早めに確認しておくことが必要と思われる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者に対する職員の声かけや対応について、個人的なことについては入居者の部屋で話すなど、プライバシーに対する配慮を確認することができた。また、ケース記録のファイル表紙に記入する名前をイニシャルにするなどの工夫も確認できた。	○	献立についても、例えば利用者との懇談会などの場で一緒に話し合いを行うことが必要と思われる。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	特別な日課を設けず、入浴、食事などは入居者の意向を尊重した対応を行っている。また、散髪を、地域にあるなじみの理容店に行く支援を行うなど柔軟な対応を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の嗜好を把握して、栄養士がカロリー計算をして献立を作成している。そして、食材の買い物や調理、食事の際の準備や片付けなどは、毎日入居者と職員と一緒に行うようにしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	予め入浴に対する一人ひとりの好みを把握している。そして、入浴表を作成しており、希望やタイミングを把握するようにしている。また、一人ひとりのその時々々の状態に応じて臨機応変に対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	毎日のカレンダーめぐり、朝夕のカーテンの開け閉め、洗濯物干しや洗濯物たたみ、庭の草取りなど、日常生活の中で入居者の自主性を尊重しつつ、役割や張り合いを持って生活できるように配慮している。また、日々の関わりの中で、入居者が関心を持ったことを記録し支援に活かしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	なじみのある地域に外出したり、地域の公民館活動への参加を支援するなど、入居者の希望に沿って外出することを支援している。入居者本人が希望を言えない方には、家族に意向を聞くなど、積極的に外出支援に取り組んでいる。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	道路から玄関までに手すりはあるものの、段差がある。また、玄関前の道路が車の往来が頻繁にあること、以前に侵入者があったことなどが理由で、安全面を優先し、玄関は施錠している。しかし、中からは暗証番号で開くようにしてある。	○	玄関前の段差解消へ向けてさらなる検討を進めていくことが望まれる。また、施錠に関しては、家族からの理解は得られているものの書面で同意を得ていくことや、暗証番号について、家族に伝えてあるものの、中から見える場所に暗証番号を掲示しておくことなども検討することが望まれる。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災マニュアル、緊急時対応マニュアルは整備され全職員に周知してある。また、定期的に避難訓練を実施しているほか、不定期に自主訓練も行っている。今後は地域と連携した災害時訓練を検討しており、防災に対する意識の高さがうかがえる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者一人ひとりの食事量や水分量を把握して記録している。栄養バランスについて、栄養士資格をもつ職員が、同じ法人の特養の栄養士と相談している。さらに、えん下の問題のある利用者への対応については、同法人の特養の言語療法士とも相談し、食べやすさについても工夫している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間には、入居者一人ひとりが創った季節感ある絵手紙が張ってあった。しかし、過度度な飾り付けはなく、木のぬくもりのある建物の良さを活かし、普段着のまま落ち着いてくつろいげることに配慮した共有スペースとなっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベットやダンス、カーテンなど、自宅で使用していた自分の物やなじみある物が持ち込まれており、自分の居室であると認識でき、くつろげるような居室づくりが行われていた。		

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム ひので
(ユニット名)	ほほえみ
所在地 (県・市町村名)	鳥取県境港市日ノ出町78-2
記入者名 (管理者)	田中 美恵
記入日	平成 19年 8月 18日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ひので独自の理念「私たちは一人ひとりに敬意を表し誠意をもって温かく希望に満ちた生活を支援します」を職員全員で構築し、理念に向けたケアを提供する努力をしている。理念に向けて、勉強会、チーム会で支援の確認を行っている。	○	チーム会、勉強会を通して、職員間の理念に向けたケアの統一、実践を行っていく。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日、朝礼で理念を復唱し、チーム計画シートに反映させ、実践に向けて取り組んでいる。	○	チーム会議、日々のミーティングの中で、その人らしい生活を検証し、実践に向けて取り組む。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	運営理念、方針、権利・義務、お約束を玄関に掲げている。また、入居時には、入居者、ご家族に説明をしている。	○	家族等には随時説明の場を設け、理解が得られる様努力する。運営推進会等を通し、理解が得られる様、説明していく。
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	自治会に参加する事により、顔なじみとなり、気軽にご挨拶をしている。地域の方も、気配りをして下さり、隣近所の付き合いをしている。	○	まずは、職員が近隣の方に対し笑顔で積極的な挨拶を実践していく。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会、公民館を通して、地域活動に参加し(市民運動会、敬老会、文化祭他各催し物)、地元の方との交流を図っている。	○	行事等の積極的参加はもとより、地域のコミュニティーを活用し交流を深めていく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	○	<p>運営推進会を活用しながら、地域への貢献へ向けて取り組んでいく。</p>
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	○	<p>議題を具体的にし、サービスの質の向上に向けて取り組みを行う。</p>
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	○	<p>会議メンバーからの意見である、地域とホームの防火訓練の計画を進めていく。</p>
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	○	<p>引き続き、ホームでの課題等情報交換を行いながら、サービスの質の向上に取り組んでいく。</p>
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	○	<p>職員の知識の向上の為、積極的な研修の参加を促していく。</p>
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	○	<p>職員の意識を高めていく為、研修参加、勉強会の開催を行っていく。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約書、重要事項説明書を分かりやすく説明し、同意を得ている。不安、疑問があれば常に説明をし、納得、理解をして頂ける様心掛けている。法人内のグループホームで情報共有を行い、家族等の不安、疑問に向け、内容の追加、改善を行っている。</p>	○	<p>利用者、家族等に納得して頂ける様、十分な説明を行っていく。契約書、重要事項説明書に分かりにくい表現、記載がないか、確認を行っていく。</p>
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>苦情窓口を重要事項説明書、契約書、ホームページ等で紹介している。広報誌を利用して公開し、今後の方針も記載し、反映させている。法人独自の事故報告書を活用し、再発防止に努めている。</p>	○	<p>利用者、家族等から、意見を出して頂ける様な雰囲気作りを行っていく。</p>
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>ひので独自の広報誌(ひので通信)を利用し、月1回文書でお知らせをしている。また、随時電話で報告をしたり、ひのでに来られた際に、情報提供を行っている。</p>	○	<p>家族等に十分に情報をお伝え出来る様、職員が日々のコミュニケーション、関係作りに努める。</p>
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>管理者や担当職員が中心に、常に利用者や家族と会話し、意見が言える様工夫し、ケアに反映させている。また、利用者の思いを、家族に聞きだしてもらい様相談し、ストレスのかからない様、気配りをしている。</p>	○	<p>家族等から意見を話して頂ける様、日々の関係作りに配慮していく。</p>
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>運営者は、月一回訪問して職員との交流に努めている。管理者は、職員が意見を言える様な雰囲気作りをし、反映させる様努めている。</p>	○	<p>積極的に職員に声を掛け、意見や提案が出やすい関係作りに努め、反映させていく。</p>
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>日中を手厚くして、ご利用者のニーズに合わせて柔軟な対応が出来る様な勤務体制がとってある。必要時には、勤務時間を変更して、柔軟に対応している。</p>	○	<p>利用者の生活に合わせ、柔軟な勤務体制を確保していく。</p>
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>ご利用者が安心して頂ける様馴染みの職員で対応してリロケーションダメージを防いでいる。新しい職員が入る時は、ご利用者、ご家族に必ず紹介している。職員の離職も低く安定している。異動は年間に一人か二人、10%に留めている。</p>	○	<p>異動、離職を含め、年間10%程度に抑え、利用者、家族等へのダメージを防ぐ。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間教育計画や研修を知らせ、自主研修の機会を促している。又、勉強会や行事の企画、実践を職員が行う事により、質を向上させる取り組みを行っている。	○	職員自ら、企画、実践出来る様、環境作りに配慮していく。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は、法人外の同業者と情報交換し交流に努めている。法人内の同業者との交流は定期的に行っている。	○	県内のグループホーム協会への入会を視野に入れながら、県内でのグループホームのサービスの質の向上に取り組んでいく。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	運営者は、職員に声を掛ける努力をしている。管理者は、職員の表情をよく見て、日中のストレスを軽減する場面を作る様にしている。	○	運営者、管理者は職員のストレス軽減野ために、常に声を掛け、ストレスを察知する努力を行う。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者は、面談をする事によって吸い上げている。又、研修の働きかけもしている。	○	運営者は、管理者、職員が積極的に働いている事を充分に理解し、環境整備に努める。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前は、管理者が、入居後は、管理者と担当が話を聞く機会を積極的に設けている。利用者の担当を、あえて作って本人が困っていること、不安なこと、求めている事等、受け止める努力を行っている。	○	しっかりと関わる事で、利用者の思いを話して頂ける様、関係作りに配慮していく。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前は、管理者が入居後は、管理者と担当が行い密に連絡を取り合っ、困っていること、不安なこと、求めていること等の軽減の努力を行っている。	○	家族等の今までの思いをしっかりと受け止め、これからの不安や思いを理解し共に支援していく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた時は、橋渡しをしている。その方にとって何が一番か見極めた対応に努めている。	○	相談の中で何に悩まされているかを把握し、対応していく。地域包括支援センター、ケアマネジャーとも日頃より連携を図る様に努める。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人の状況に合わせて、ひのひに何度か足を運んで頂き、雰囲気慣れて頂ける様支援している。	○	本人の状況に合わせて、徐々に馴染んで頂ける様、配慮しながらサービスに繋げていく。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ご利用者を人生の先輩と捉えて関わりながら一緒に食事や家事、掃除等行い信頼関係を築いて、学ばせて頂いている。時には職員の悩みを聞いて頂き、助言を頂きながら日々を過ごしている。	○	職員も利用者も、生活をする者同士として共に支え合う関係性を大切にしていく。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族と利用者と職員が共に支え合い仲間として関係を築いていく努力をしている。	○	家族等と情報交換を密に行い、アドバイス等を頂きながら、共に支えていく関係を大切にしていく。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	開苑セレモニーや家族会を開き、関係が途切れない様、本人や家族の思いを受け止めながらコミュニケーションをとっている。通院や理美容院は、出来るだけ家族の方に行っている。	○	本人と家族等の関係をよく理解し、よい関係が保たれる様支援していく。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの理美容院や近所に散歩、墓参りに出掛けたり、友達の家遊びに行き、以前からの繋がりが途切れない様に支援している。	○	地域交流として、公民館活動である、ふれあいの家と今後交流していく。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	気の合った方とテーブルを囲んで食事をしたり、散歩に出掛けて頂いている。利用者同士がお互いの部屋を行き来して関係を大切にしている。	○	職員は橋渡し役程度とし、利用者同士の関わりを大切にしている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	○	継続的な関わりを必要とする方に対する支援を行う体制を整えていく。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	○	日々の生活から本人の思いを組み取る努力を行い、本人の思いに近づけていく。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	○	日頃の本人、家族等との会話の中で、これまでの暮らしを聞きながら把握に努めている。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	○	職員間の伝達（記録、ミーティング）を通して、日々の変化を見逃さず、柔軟な支援体制を整える。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	○	本人や家族等の思いが十分に反映された介護計画を作成する様に努める。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	○	本人や家族等とよく話し合い、現状に即した計画作成に努める。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録、申し送りで気付いた事をチーム会で話し合い情報を共有し介護計画表の見直しに努めている。	○	日々の様子を記録に残し、職員間の情報共有に活かしていく。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ショートステイ、デイサービス等の申請をしている。	○	現在、市と協議中である。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	必要に応じて、地域資源を活用し利用者が生活しやすい様に支援している。	○	利用者が地域に出掛け活動する事により、地域の方との関係を築いていく。
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	利用者、家族にホームでの情報を伝え、必要性に応じて、他のサービスへ移行していく体制がある。	○	利用者、家族の意向に合わせて、他のサービスを利用する為の支援を整えていく。
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターと相談し対応していく体制がある。運営推進委員会に参加して頂き、情報交換し共有を行っている。	○	地域包括支援センターと必要に応じ情報交換し協働していく様努める。
43 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	在宅からの、かかりつけ医を利用して頂き状態に応じて家族と協力して受診介助を行っている。お互いに、診察の際の情報交換を行い、情報共有に努めている。	○	かかりつけ医と連携を密にしながら、統一した意識の元で医療を受けて頂く体制を整える。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	外部の心療内科のドクターと連携を図り、担当職員又は、家族が直接ドクターと相談し往診治療を受けられる体制が整っている。主治医ではないホームの利用者の状態も助言をして頂いている。	○	連携を図りながら、利用者の状態変化の早期発見、対応をしていく。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護資格を所有する職員を1名配置している。訪問看護ステーションと契約し日常の健康管理に努めている。訪問看護ステーションと気軽に相談し連携を図っている。	○	訪問看護ステーションとの情報共有を密にし、利用者の健康面の支援をしていく。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院受け入れ機関と主治医と連携を図り、退院に向けた話し合いを行っている。入院中は職員が足を運び、顔を見て頂く事で安心感に繋がる様、努めている。	○	入院中の情報交換を密に行い、本人、家族の思いに配慮した支援を行う。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者の状態に合わせて、その都度家族、かかりつけ医と話し合い、利用者や家族の思いに配慮している。チーム内で情報共有してケアに努めている。	○	重度化した場合や、終末期のあり方について、本人、家族等の思いに配慮し、支援していく。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	事業所の「出来る事、出来ない事」を明確に本人、家族等に伝え納得をして頂きながら、利用者、家族との思いに配慮し、かかりつけ医と共に支援している。その方の変化に合わせて、常に検討し思いに合ったケアを提供している。	○	本人、家族等と定期的に話し合い、日頃より、意向を確認しておく。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	前例がない。リロケーションダメージに対応する為、情報提供をしっかり行い安心して移り住む体制をとる様努めている。	○	安心して、移り住む事が出来る様、本人、家族、関係機関のフォローに努める。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	声のトーンや話の内容を他者に配慮しながら、利用者に言葉をかけている(特に、排泄、入浴等)。個人の情報がもれない様に取り扱いに配慮している。	○ 利用者に対し、声のトーンや話しかける場所に気配りし、利用者が不快を感じない様に配慮する。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	個々の能力に合わせて理解して頂ける様な言葉かけを行っている。本人の能力を発揮出来る様な軽作業の支援をしている。	○ 常に、選択肢をお伝えし、自己決定出来る環境を整えていく。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活リズムを一人ひとりに合わせて、本人の希望に配慮しながら職員は支援している。日々の関わりの中から、本人の思いを聞き出す努力をし、実現に向けて取り組んでいる。	○ 一人ひとりのペース、その日の思いを把握し、職員で共有し支援していく。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	在宅からのいきつけの理容、美容店に行っている。日々の身だしなみも本人と相談しながら行っている。	○ 本人、家族等と連携を図りながら、本人の思いに添った支援を行う。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食器は本人のものを使用して頂いている(一部ホームのもの)。職員は利用者の能力に合わせて、炊事に関わって頂いている。職員は利用者と一緒にメニューを作成している。メニューは、利用者の思いを配慮し、臨機応変に対応している。	○ 利用者の日々の役割として、活動して頂ける様支援していく。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	職員は、日頃より嗜好を把握する様努めている。又、その場でも、再度、一人ひとり確認しながらお出ししている。食事の好みでない物は違うメニューをお出ししている。	○ 嗜好品の把握に努めると共に、その日の体調や気分で、変化する事も、視野に入れて支援する。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一人ひとりの排泄パターンを把握しながら支援している。おしめのコストにも目を向け使用を減らす努力を行っている。	○	本人のその日の体調(身体、精神)にも配慮し、職員間で情報共有を行いながら支援する。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一人ひとりに声をかけ希望に合わせながら支援している。拒否がある場合は時間をあげ声をかけている。	○	一人ひとりの入浴に対する思い(習慣等)に配慮し、支援する。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中活動する事で夜間十分な睡眠が取れる様配慮している。一人ひとり生活リズムに合わせ、日中も休息してもら場合もある。人淋しい方は食堂で寝て頂く等(職員の側で)、睡眠に向けて工夫している。	○	一日の生活を、メリハリのあるものにし、ゆっくと休息、安眠がとれる様努める。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員は、一人ひとりの趣味や役割、生きがいをさぐりながら、利用者に活動して頂いている。その方の体調に気配りしストレスが、かかっている様であれば、気分転換出来る様支援している。	○	一人ひとりの役割、楽しみ事を把握しながら、利用者の会話の中で、日々の感情を確認し支援していく。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持する事で、安心される方もいる為思いに配慮している。	○	本人、家族等の思いに配慮する。職員間で、お金を持つ事の大切さを、充分理解し、共通認識する様努める。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	住み慣れた地域に出掛け馴染みの方に出会い、今までの関係を継続して頂いている。利用者の希望を聞いて知人宅、家庭、墓参り等して頂ける様支援している。	○	本人、家族等の思いを聞き、実現に向け、取り組む。職員は思いを察知出来る様、日々、充分な関わりを持つ。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	個々の希望を聞いて、計画を立てて実現している。必要であれば、外泊のお手伝いも行っている。	○	本人、家族等の希望を把握し、実現出来る様、協働体制を整える。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自由に電話をかけた後、外からの電話を取り次いでいる。手紙は本人に渡して返事が書ける様支援している。必要な方には、職員が代筆を行っている。	○	本人の思いを理解し、気兼ねなく、電話や手紙のやりとりが出来る様支援する。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	来客があった場合、職員が笑顔で出迎えお茶などをお出しし和みやすい雰囲気配慮している。外でお会いした友人知人に「また、来て下さいね」と声をかけ訪問支援している。特に、面会時間は設けていない。	○	職員は、笑顔を絶やさず、訪問者が、居心地の良い環境作りをしていく。
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人でネバモア宣言を行い、身体拘束の廃止を行っている。法人内の研修を通して、実践に向けて、意識を高める様努めている。	○	職員間で、共通認識の下、支援する。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関前の道路は車の往来が頻繁であり、外部侵入者が把握出来ない構造になっている。リスクを優先して閉錠している場合もあるが、その際は利用者が外出したい様子があれば、声をかけ外出支援をしている。家族には暗証番号を教えている。	○	利用者が、いつでも気分転換で外出できる様にし、安全面にも十分に、気配りを行う。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は昼夜問わず、様子確認を定期的に行っている。常に利用者の暮らしの中でさりげなく見守り支援している。	○	利用者の安全に配慮し、過剰な見守りにならない様、支援する。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	日中は利用者も洗剤や包丁が使える様設置してある。利用者の必要な物(針、ハサミ等)は、居室においてゆっくと、使ってもらう様にして職員がさりげなく見守っている。	○	職員が安全に使用して頂ける様に、さりげなく見守りを行う。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	生活支援計画表にリスクを記入し事故防止に努めている。一部に関しては、マニュアルを作成している。(服薬、離苑)法人独自の事故報告書を作成し再発防止に努めている。	○	職員は、予測出来る危険性について意識し、日々、家族も含め、情報共有をしながら、事故防止に努める。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	定期的に救急救命法の勉強会を実施している。常に、利用者一人ひとりに対し急変を予測し対応を職員間で話し合っている。	○	救急救命に関する講習の継続的な参加を行う。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアル作成をして定期的に避難訓練を実施している。(専門機関立ち会い)災害発生に備えて食料、飲料水等物品の準備をしている。	○	地域の方と共に、防災訓練を実施し、協力体制を整える。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	家族と話し合いもと、生活支援計画表に記入し定期的に見直しを行っている。リスクに配慮しながらも、個々の能力を発揮出来る様支援している。	○	家族等を含めたリスクの共有を行い、常に把握し、危険回避に努める。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	職員は利用者の日頃の状態を把握し、状態変化の早期発見に努めている。職員間で情報共有し、かかりつけ医とも連携を図っている。家族にも報告し共通認識に努めている。	○	一人ひとりの状態を把握し、早期発見、対応に努める。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は病院からの処方箋を必ず読み、薬の目的、副作用、用法や用量を確認し、医師に指示通りに服薬を行っている。医師とも連携を図り、薬の必要性について検討を行っている。	○	職員は利用者の服薬状態を把握し、事故のない様、支援する。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘薬に頼らず自然排便に努めている。繊維質の物、水分、運動に配慮し個々の状態に合わせて支援している。	○	一人ひとりの体調を把握し、薬に頼らず、自然排便に努める。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の口腔ケアの励行を行っている。自ら出来ない方は職員が出来ない部分の手伝いをし清潔保持に努めている。歯科衛生士、STと連携を図っている。	○	一人ひとりの能力に合わせた支援を行い、清潔保持に努める。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日1700cal、1日水分1500ccを目安に個々の状態に合わせた形態、嗜好の物を提供している。水分量、食事量は記録に残し、かかりつけ医と連携を図り、体調管理に努めている。	○	一人ひとりの水分量、食事量を把握し体調管理に努めている。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	マニュアルを参考に周知徹底をしている。うがい、手洗い、除菌の徹底、手袋の使用し保護している。	○	感染症に対する意識を高め、職員が媒介者とならない様、周知徹底する。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板、布巾は毎食後、消毒している。毎日必要分の買い物をし、新鮮な食材を使用している。炊事の際は冷蔵庫をチェックし賞味期限内に使用している。	○	調理器具の衛生管理を徹底する。常に、新鮮な食材を使用する。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関周りに四季折々の草花を飾り、季節を感じて頂くと共に訪れやすい雰囲気を演出している。来客を待たせない様、職員がすばやく対応する意識付けを行っている。	○	玄関周りの雰囲気、職員の対応に、来客が圧迫感のない様、努める。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	華美な装飾にならないよう、また、高齢者に住みよい色使いと家庭的な雰囲気に配慮している。家庭内で使用している物品と同じ物を持参、購入して頂いている。家事の音、食事の匂い、季節の草花の色や匂い、野菜、虫の声、ペットの温もり等、五感に働きかける様々な刺激を取り入れている。	○	一人ひとりが自然にくつろげ、落ち着いて過ごせる空間作りを目指す。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った利用者同士が会話の出来る様、居間にソファ、こたつを置きくつろげる場所を作っている。一時的に、テーブル等を動かし、居心地よい空間作りをしている。	○	生活支援指針(PEAP)を活用し、居心地よい環境の整備を行う。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には自宅で使用していた家具、仏壇等が持ち込まれ、馴染みのある物に囲まれ安心して生活出来る様な環境作りに配慮している。備品を購入する際には、必ず本人と一緒に意向を伺い購入している。	○	利用者が自室で、和んで頂ける様、家族等と相談しながら、自宅に近づけた空間作りを行う。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	居室、食堂、廊下と適時空気の入替えを行っている。天候により気温、湿度に配慮している。冷暖房の使用時は利用者の席、衣類等も考慮しながら調整をしている。利用者の好みの温度に配慮している。居室、食堂、廊下の温度差がない様に配慮している。	○	こまめに換気を行い、清潔を保つ。過剰な冷暖房の使用を避け、利用者の体調に配慮する。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の能力の発揮と家庭的な雰囲気作りの為、手すりはトイレ、浴室の要所に設置し、最小限に工夫している。台所は使い勝手が良く安心して調理が出来る様に、また、椅子などは足台を使って高さ調整や安定を保つ工夫をしている。ADL低下の場合、車椅子使用の際は、段差のない裏口から出入り出来る。	○	利用者のその日の体調を把握し、ハード面でカバー出来ない時は、職員が見守り、安全に努める。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	自室前には家族、本人の了解を得て必要であると言われた方には表札を設置している。利用者の目線に合わせて場所案内の貼紙をしている場所もある(必要時のみ)。職員が過剰にケアするのではなく、一人ひとりの出来る事を活かす様、努める。	○	一人ひとりのわかる力を職員は理解し、力が発揮する事が出来る様、支援する。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	建物の周りやベランダにプランターを置き、園芸、野菜作りが出来る様に工夫をし、利用者が野菜作りやガーデニングを楽しめる様な場を作っている。利用者が花の水やりを日々の日課としておられる。	○	外周りやベランダのプランターを活用する事で、利用者の役割や、楽しみに繋がる様に支援する。

V. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

・その方が出来る能力をなくさない様に努めている。 ・毎日が、その方らしく過ごせる様支援している。健康面に配慮し、危険防止に努めている。

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム ひので
(ユニット名)	なごみ
所在地 (県・市町村名)	鳥取県境港市日ノ出町78-2
記入者名 (管理者)	田中 美恵
記入日	平成 19年 8月 18日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ひので独自の理念「私たちは一人ひとりに敬意を表し誠意をもって温かく希望に満ちた生活を支援します」を職員全員で構築し、理念に向けたケアを提供する努力をしている。理念に向けて、勉強会、チーム会で支援の確認を行っている。	○	チーム会、勉強会を通して、職員間の理念に向けたケアの統一、実践を行っていく。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日、朝礼で理念を復唱し、チーム計画シートに反映させ、実践に向けて取り組んでいる。	○	チーム会議、日々のミーティングの中で、その人らしい生活を検証し、実践に向けて取り組む。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	運営理念、方針、権利・義務、お約束を玄関に掲げている。また、入居時には、入居者、ご家族に説明をしている。	○	家族等には随時説明の場を設け、理解が得られる様努力する。運営推進会等を通し、理解が得られる様、説明していく。
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	自治会に参加する事により、顔なじみとなり、気軽にご挨拶をしている。地域の方も、気配りをして下さり、隣近所の付き合いをしている。	○	まずは、職員が近隣の方に対し笑顔で積極的な挨拶を実践していく。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会、公民館を通して、地域活動に参加し(市民運動会、敬老会、文化祭他各催し物)、地元の方との交流を図っている。	○	行事等の積極的参加はもとより、地域のコミュニティーを活用し交流を深めていく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	昨年自治会に参加し、まずは回覧板を回しあう事から始め、自治会の活動にも参加をしている。(一斉清掃等)運営推進会の中で、地域の委員さんと認知症高齢者の情報共有を行っている。	○	運営推進会を活用しながら、地域への貢献へ向けて取り組んでいく。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価委員を中心に、全職員で自己評価をする事により、活動の評価、課題に向けた具体的な取り組みを行い、定期的な見直しの場としている。また、職員間の意識統一の場としても役立っている。	○	議題を具体的にし、サービスの質の向上に向けて取り組みを行う。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	約2ヶ月に1回、運営推進会議を開催し、ホームの活動状況を報告している。委員の方からも、意見、助言を頂き、情報交換の場となっている。	○	会議メンバーからの意見である、地域とホームの防火訓練の計画を進めていく。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	随時、長寿健康課、生活支援係と連携を図り、情報交換を行っている。運営推進会のメンバーにも入って頂き、会議に参加をして頂いている。	○	引き続き、ホームでの課題等情報交換を行いながら、サービスの質の向上に取り組んでいく。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	成年後見センター・鳥取支部長より、制度について情報提供をして頂いている。ホーム内の必要な方については、ご家族に紹介をしたり、相談に乗って頂ける様、橋渡しをしている。	○	職員の知識の向上の為、積極的な研修の参加を促している。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に参加する機会を作り、知識の共有に努めている。スタッフ内でお互いに意識し、注意をし合いながら防止に努めている。	○	職員の意識を高めていく為、研修参加、勉強会の開催を行っている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要事項説明書を分かりやすく説明し、同意を得ている。不安、疑問があれば常に説明をし、納得、理解をして頂ける様心掛けている。法人内のグループホームで情報共有を行い、家族等の不安、疑問に向け、内容の追加、改善を行っている。	○	利用者、家族等に納得して頂ける様、十分な説明を行っていく。契約書、重要事項説明書に分かりにくい表現、記載がないか、確認を行っていく。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情窓口を重要事項説明書、契約書、ホームページ等で紹介している。広報誌を利用して公開し、今後の方針も記載し、反映させている。法人独自の事故報告書を活用し、再発防止に努めている。	○	利用者、家族等から、意見を出して頂ける様な雰囲気作りを行っていく。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ひので独自の広報誌(ひので通信)を利用し、月1回文書でお知らせをしている。また、随時電話で報告をしたり、ひのでに來られた際に、情報提供を行っている。	○	家族等に十分に情報をお伝え出来る様、職員が日々のコミュニケーション、関係作りに努める。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者や担当職員が中心に、常に利用者や家族と会話し、意見が言える様工夫し、ケアに反映させている。また、利用者の思いを、家族に聞きだしてもらい様相談し、ストレスのかからない様、気配りをしている。	○	家族等から意見を話して頂ける様、日々の関係作りに配慮していく。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営者は、月一回訪問して職員との交流に努めている。管理者は、職員が意見を言える様な雰囲気作りをし、反映させる様努めている。	○	積極的に職員に声を掛け、意見や提案が出やすい関係作りに努め、反映させていく。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	日中を手厚くして、ご利用者のニーズに合わせて柔軟な対応が出来る様な勤務体制がとってある。必要時には、勤務時間を変更して、柔軟に対応している。	○	利用者の生活に合わせ、柔軟な勤務体制を確保していく。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ご利用者が安心して頂ける様馴染みの職員で対応してリロケーションダメージを防いでいる。新しい職員が入る時は、ご利用者、ご家族に必ず紹介している。職員の離職も低く安定している。異動は年間に一人か二人、10%に留めている。	○	異動、離職を含め、年間10%程度に抑え、利用者、家族等へのダメージを防ぐ。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間教育計画や研修を知らせ、自主研修の機会を促している。又、勉強会や行事の企画、実践を職員が行う事により、質を向上させる取り組みを行っている。	○	職員自ら、企画、実践出来る様、環境作りに配慮していく。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は、法人外の同業者と情報交換し交流に努めている。法人内の同業者との交流は定期的に行っている。	○	県内のグループホーム協会への入会を視野に入れながら、県内でのグループホームのサービスの質の向上に取り組んでいく。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	運営者は、職員に声を掛ける努力をしている。管理者は、職員の表情をよく見て、日中のストレスを軽減する場面を作る様にしている。	○	運営者、管理者は職員のストレス軽減野ために、常に声を掛け、ストレスを察知する努力を行う。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者は、面談をする事によって吸い上げている。又、研修の働きかけもしている。	○	運営者は、管理者、職員が積極的に働いている事を充分に理解し、環境整備に努める。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前は、管理者が、入居後は、管理者と担当が話を聞く機会を積極的に設けている。利用者の担当を、あえて作って本人が困っていること、不安なこと、求めている事等、受け止める努力を行っている。	○	しっかりと関わる事で、利用者の思いを話して頂ける様、関係作りに配慮していく。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前は、管理者が入居後は、管理者と担当が行い密に連絡を取り合っ、困っていること、不安なこと、求めていること等の軽減の努力を行っている。	○	家族等の今までの思いをしっかりと受け止め、これからの不安や思いを理解し共に支援していく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた時は、橋渡しをしている。その方にとって何が一番見極めた対応に努めている。	○	相談の中で何に悩まされているかを把握し、対応していく。地域包括支援センター、ケアマネジャーとも日頃より連携を図る様に努める。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人の状況に合わせて、ひのひに何度か足を運んで頂き、雰囲気慣れて頂ける様支援している。	○	本人の状況に合わせて、徐々に馴染んで頂ける様、配慮しながらサービスに繋げていく。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ご利用者を人生の先輩と捉えて関わりながら一緒に食事や家事、掃除等行い信頼関係を築いて、学ばせて頂いている。時には職員の悩みを聞いて頂き、助言を頂きながら日々を過ごしている。	○	職員も利用者も、生活をする者同士として共に支え合う関係性を大切にしていく。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族と利用者と職員が共に支え合い仲間として関係を築いていく努力をしている。	○	家族等と情報交換を密に行い、アドバイス等を頂きながら、共に支えていく関係を大切にしていく。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	開苑セレモニーや家族会を開き、関係が途切れない様、本人や家族の思いを受け止めながらコミュニケーションをとっている。通院や理美容院は、出来るだけ家族の方に行ってもらっている。	○	本人と家族等の関係をよく理解し、よい関係が保たれる様支援していく。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの理美容院や近所に散歩、墓参りに出掛けたり、友達の家に遊びに行き、以前からの繋がりが途切れない様に支援している。	○	地域交流として、公民館活動である、ふれあいの家と今後交流していく。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	気の合った方とテーブルを囲んで食事をしたり、散歩に出掛けて頂いている。利用者同士がお互いの部屋を行き来して関係を大切にしている。	○	職員は橋渡し役程度とし、利用者同士の関わりを大切にしている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービス終了後も、近所であったり、外であっても話し、良い関係を保っている。	○	継続的な関わりを必要とする方に対する支援を行う体制を整えていく。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いを聞き出し生活支援計画表をたてて支援している。家族ともしっかりと情報交換し、思いを十分に表現出来ない方は、本人の思いに近づける努力をしている。	○	日々の生活から本人の思いを組み取る努力を行い、本人の思いに近づけていく。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	法人独自のシート(ヒストリーシート)を活用しながら、生活歴、エピソードの把握に努めている。	○	日頃の本人、家族等との会話の中で、これまでの暮らしを聞きながら把握に努めている。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態等の細かな観察をし、記録をする事により把握に努めている。	○	職員間の伝達(記録、ミーティング)を通して、日々の変化を見逃さず、柔軟な支援体制を整える。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご利用者、ご家族から意向を聞いたり、職員同士の情報を得たりして、一人ひとりに合った生活支援計画表を作成している。	○	本人や家族等の思いが十分に反映された介護計画を作成する様に努める。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	本人、家族等と話し合いながら半年に一回見直しを行っている。状況が変化したら都度状況に即した見直しを行う様努めている。	○	本人や家族等とよく話し合い、現状に即した計画作成に努める。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録、申し送りで気付いた事をチーム会等で話し合い情報を共有し介護計画表の見直しに努めている。	○	日々の様子を記録に残し、職員間の情報共有に活かしていく。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ショートステイ、デイサービス等の申請をしている。	○	現在、市と協議中である。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	必要に応じて、地域資源を活用し利用者が生活しやすい様に支援している。	○	利用者が地域に出掛け活動する事により、地域の方との関係を築いていく。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	利用者、家族にホームでの情報を伝え、必要性に応じて、他のサービスへ移行していく体制がある。	○	利用者、家族の意向に合わせて、他のサービスを利用する為の支援を整えていく。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターと相談し対応していく体制がある。運営推進委員会に参加して頂き、情報交換し共有を行っている。	○	地域包括支援センターと必要に応じ情報交換し協働していく様努める。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	在宅からの、かかりつけ医を利用して頂き状態に応じて家族と協力して受診介助を行っている。お互いに、診察の際の情報交換を行い、情報共有に努めている。	○	かかりつけ医と連携を密にししながら、統一した意識の元で医療を受けて頂く体制を整える。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	○	<p>連携を図りながら、利用者の状態変化の早期発見、対応をしていく。</p>
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	○	<p>訪問看護ステーションとの情報共有を密にし、利用者の健康面の支援をしていく。</p>
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	○	<p>入院中の情報交換を密に行い、本人、家族の思いに配慮した支援を行う。</p>
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	○	<p>重度化した場合や、終末期のあり方について、本人、家族等の思いに配慮し、支援していく。</p>
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	○	<p>本人、家族等と定期的に話し合い、日頃より、意向を確認しておく。</p>
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	○	<p>安心して、移り住む事が出来る様、本人、家族、関係機関のフォローに努める。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	声のトーンや話の内容を他者に配慮しながら、利用者に言葉をかけている(特に、排泄、入浴等)。個人の情報がもれない様に取り扱いに配慮している。	○ 利用者に対し、声のトーンや話しかける場所に気配りし、利用者が不快を感じない様に配慮する。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	個々の能力に合わせて理解して頂ける様な言葉かけを行っている。本人の能力を発揮出来る様な軽作業の支援をしている。	○ 常に、選択肢をお伝えし、自己決定出来る環境を整えていく。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活リズムを一人ひとりに合わせて、本人の希望に配慮しながら職員は支援している。日々の関わりの中から、本人の思いを聞き出す努力をし、実現に向けて取り組んでいる。	○ 一人ひとりのペース、その日の思いを把握し、職員で共有し支援していく。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	在宅からのいきつけの理容、美容店に行っている。日々の身だしなみも本人と相談しながら行っている。	○ 本人、家族等と連携を図りながら、本人の思いに添った支援を行う。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食器は本人のものを使用して頂いている(一部ホームのもの)。職員は利用者の能力に合わせて、炊事に関わって頂いている。職員は利用者と一緒にメニューを作成している。メニューは、利用者の思いを配慮し、臨機応変に対応している。	○ 利用者の日々の役割として、活動して頂ける様支援していく。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	職員は、日頃より嗜好を把握する様努めている。又、その場でも、再度、一人ひとり確認しながらお出ししている。食事の好みでない物は違うメニューをお出ししている。	○ 嗜好品の把握に努めると共に、その日の体調や気分で、変化する事も、視野に入れて支援する。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一人ひとりの排泄パターンを把握しながら支援している。おしめのコストにも目を向け使用を減らす努力を行っている。	○	本人のその日の体調(身体、精神)にも配慮し、職員間で情報共有を行いながら支援する。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一人ひとりに声をかけ希望に合わせながら支援している。拒否がある場合は時間をあげ声をかけている。	○	一人ひとりの入浴に対する思い(習慣等)に配慮し、支援する。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中活動する事で夜間十分な睡眠が取れる様配慮している。一人ひとり生活リズムに合わせ、日中も休息してもらう場合もある。人淋しい方は食堂で寝て頂く等(職員の側で)、睡眠に向けて工夫している。	○	一日の生活を、メリハリのあるものにし、ゆっくりと休息、安眠がとれる様努める。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員は、一人ひとりの趣味や役割、生きがいをさぐりながら、利用者に活動して頂いている。その方の体調に気配りしストレスが、かかっている様であれば、気分転換出来る様支援している。	○	一人ひとりの役割、楽しみ事を把握しながら、利用者の会話の中で、日々の感情を確認し支援していく。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持する事で、安心される方もいる為思いに配慮している。	○	本人、家族等の思いに配慮する。職員間で、お金を持つ事の大切さを、充分理解し、共通認識する様努める。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	住み慣れた地域に出掛け馴染みの方に出会い、今までの関係を継続して頂いている。利用者の希望を聞いて知人宅、家庭、墓参り等して頂ける様支援している。	○	本人、家族等の思いを聞き、実現に向け、取り組む。職員は思いを察知出来る様、日々、充分な関わりを持つ。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	個々の希望を聞いて、計画をたてて実現している。必要であれば、外泊のお手伝いも行っている。	○	本人、家族等の希望を把握し、実現出来る様、協働体制を整える。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自由に電話をかけたがり、外からの電話を取り次いでいる。手紙は本人に渡して返事が書ける様支援している。必要な方には、職員が代筆を行っている。	○	本人の思いを理解し、気兼ねなく、電話や手紙のやりとりが出来る様支援する。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	来客があった場合、職員が笑顔で出迎えお茶などをお出しし和みやすい雰囲気配慮している。外でお会いした友人知人に「また、来て下さいね」と声をかけ訪問支援している。特に、面会時間は設けていない。	○	職員は、笑顔を絶やさず、訪問者が、居心地の良い環境作りをしていく。
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人でネバモア宣言を行い、身体拘束の廃止を行っている。法人内の研修を通して、実践に向けて、意識を高める様努めている。	○	職員間で、共通認識の下、支援する。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関前の道路は車の往来が頻繁であり、外部侵入者が把握出来ない構造になっている。リスクを優先して閉錠している場合もあるが、その際は利用者が外出したい様子があれば、声をかけ外出支援をしている。家族には暗証番号を教えている。	○	利用者が、いつでも気分転換で外出できる様にし、安全面にも充分に、気配りを行う。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は昼夜問わず、様子確認を定期的に行っている。常に利用者の暮らしの中でさりげなく見守り支援している。	○	利用者の安全に配慮し、過剰な見守りにならない様、支援する。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	日中は利用者も洗剤や包丁が使える様設置してある。利用者の必要な物(針、ハサミ等)は、居室においてゆっくと、使ってもらう様にして職員がさりげなく見守っている。	○	職員が安全に使用して頂ける様に、さりげなく見守りを行う。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	生活支援計画表にリスクを記入し事故防止に努めている。一部に関しては、マニュアルを作成している。(服薬、離苑)法人独自の事故報告書を作成し再発防止に努めている。	○	職員は、予測出来る危険性について意識し、日々、家族も含め、情報共有をしながら、事故防止に努める。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	定期的に救急救命法の勉強会を実施している。常に、利用者一人ひとりに対し急変を予測し対応を職員間で話し合っている。	○	救急救命に関する講習の継続的な参加を行う。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアル作成をして定期的に避難訓練を実施している。(専門機関立ち会い)災害発生に備えて食料、飲料水等物品の準備をしている。	○	地域の方と共に、防災訓練を実施し、協力体制を整える。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	家族と話し合いもと、生活支援計画表に記入し定期的に見直しを行っている。リスクに配慮しながらも、個々の能力を發揮出来る様支援している。	○	家族等を含めたリスクの共有を行い、常に把握し、危険回避に努める。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	職員は利用者の日頃の状態を把握し、状態変化の早期発見に努めている。職員間で情報共有し、かかりつけ医とも連携を図っている。家族にも報告し共通認識に努めている。	○	一人ひとりの状態を把握し、早期発見、対応に努める。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は病院からの処方箋を必ず読み、薬の目的、副作用、用法や用量を確認し、医師に指示通りに服薬を行っている。医師とも連携を図り、薬の必要性について検討を行っている。	○	職員は利用者の服薬状態を把握し、事故のない様、支援する。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘薬に頼らず自然排便に努めている。繊維質の物、水分、運動に配慮し個々の状態に合わせて支援している。	○	一人ひとりの体調を把握し、薬に頼らず、自然排便に努める。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の口腔ケアの励行を行っている。自ら出来ない方は職員が出来ない部分の手伝いをし清潔保持に努めている。歯科衛生士、STと連携を図っている。	○	一人ひとりの能力に合わせた支援を行い、清潔保持に努める。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日1700cal、1日水分1500ccを目安に個々の状態に合わせた形態、嗜好の物を提供している。水分量、食事量は記録に残し、かかりつけ医と連携を図り、体調管理に努めている。	○	一人ひとりの水分量、食事量を把握し体調管理に努めている。
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	マニュアルを参考に周知徹底をしている。うがい、手洗い、除菌の徹底、手袋の使用し保護している。	○	感染症に対する意識を高め、職員が媒介者とならない様、周知徹底する。
79 ○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板、布巾は毎食後、消毒している。毎日必要分の買い物をし、新鮮な食材を使用している。炊事の際は冷蔵庫をチェックし賞味期限内に使用している。	○	調理器具の衛生管理を徹底する。常に、新鮮な食材を使用する。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり			
80 ○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関周りに四季折々の草花を飾り、季節を感じて頂くと共に訪れやすい雰囲気を演出している。来客を待たせない様、職員がすばやく対応する意識付けを行っている。	○	玄関周りの雰囲気、職員の対応に、来客が圧迫感のない様、努める。
81 ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	華美な装飾にならないよう、また、高齢者に住みよい色使いと家庭的な雰囲気に配慮している。家庭内で使用している物品と同じ物を持参、購入して頂いている。家事の音、食事の匂い、季節の草花の色や匂い、野菜、虫の声、ペットの温もり等、五感に働きかける様々な刺激を取り入れている。	○	一人ひとりが自然にくつろげ、落ち着いて過ごせる空間作りを目指す。
82 ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った利用者同士が会話の出来る様、居間にソファ、こたつを置きくつろげる場所を作っている。一時的に、テーブル等を動かし、居心地よい空間作りをしている。	○	生活支援指針(PEAP)を活用し、居心地よい環境の整備を行う。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には自宅で使用していた家具、仏壇等が持ち込まれ、馴染みのある物に囲まれ安心して生活出来る様な環境作りに配慮している。備品を購入する際には、必ず本人と一緒に意向を伺い購入している。	○	利用者が自室で、和んで頂ける様、家族等と相談しながら、自宅に近づけた空間作りを行う。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	居室、食堂、廊下と適時空気の入替えを行っている。天候により気温、湿度に配慮している。冷暖房の使用時は利用者の席、衣類等も考慮しながら調整をしている。利用者の好みの温度に配慮している。居室、食堂、廊下の温度差がない様に配慮している。	○	こまめに換気を行い、清潔を保つ。過剰な冷暖房の使用を避け、利用者の体調に配慮する。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の能力の発揮と家庭的な雰囲気作りの為、手すりはトイレ、浴室の要所に設置し、最小限に工夫している。台所は使い勝手が良く安心して調理が出来る様に、また、椅子などは足台を使って高さ調整や安定を保つ工夫をしている。A/DL低下の場合、車椅子使用の際は、段差のない裏口から出入り出来る。	○	利用者のその日の体調を把握し、ハード面でカバー出来ない時は、職員が見守り、安全に努める。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	自室前には家族、本人の了解を得て必要であると言われた方には表札を設置している。利用者の目線に合わせて場所案内の貼紙をしている場所もある(必要時のみ)。職員が過剰にケアするのではなく、一人ひとりの出来る事を活かす様、努める。	○	一人ひとりのわかる力を職員は理解し、力が発揮する事が出来る様、支援する。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	建物の周りやベランダにプランターを置き、園芸、野菜作りが出来る様に工夫をし、利用者が野菜作りやガーデニングを楽しめる様な場を作っている。利用者が花の水やりを日々の日課としておられる。	○	外周りやベランダのプランターを活用する事で、利用者の役割や、楽しみに繋がる様に支援する。

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

・毎月、地域のボランティアの方が来られ、絵手紙、コーラス、美顔マッサージ、整膚、蕎麦打ち、ハーモニカ、ガーデニングを行っている。近くの幼稚園やお寺に通い、人同士の交流を深めている。・畑作りや、プランターをいじる事により、土(自然)との触れ合いを大切にしている。・動物と共に生活をする事により、気持ちの安定につなげ、癒しの効果を演出している。・まずは、職員同士のチームワークを作る上で、笑顔をもットとし、そして、ご利用者に関わる事で、笑いの絶えないグループホームを目指しています。